

「抜本的な治水対策を」

7月豪雨関連で足立参院議員

自民党の足立敏之参院議員「写真」は30日に開かれた参院国土交通委員会、7月に記録的な豪雨に襲われた熊本県南

部の球磨川周辺について、2009年に事業が中止された川辺川ダムの整備を含め、抜本的な治水対策の必要性を指摘し

足立議員は、気候変動により今後、平均気温が4度上昇すると九州北西部や北海道で短時間降雨量が1・5倍になるとの予測を提示。水害のさらなる頻発・激甚化に備え

回の豪雨や19年の東日本台風など、従来の常識を超えるような災害が頻発している」と応じた。7月豪雨で被災した人吉盆地が洪水の起こりやすい地形となっていることに

「人吉市など球磨川沿いのまちの再生と合わせ、川辺川ダムを含めた抜本的な治水対策を進めるべき」と述べた。



た。今回の豪雨の経過を早期に検証し、熊本県とも連携しながら対応方針を検討するよう国土交通省に求め

赤羽一嘉国交相は「今

も触れ、「再度の災害を防止し、住民の命と暮らしを守るため、上流と下流、本川と支川など流域全体を俯瞰（ふかん）しながら抜本的な対策を講

じなければならない」と続けた。足立議員はまた、災害の頻発により、自治体に代わって国が復旧などの工事を実施する権限代行が増えている現状を説明。各地方整備局が権限代行に伴って事務所や出張所などの組織を新設していることを踏まえ、必要な定員を確保する必要性を訴えた。